



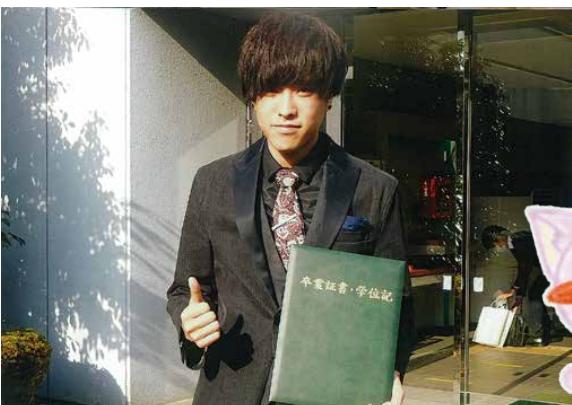
社大同窓会

vol.

88

同窓会×大学
パートナーシップ推進

福祉の最前線へ



明日の福祉の
担い手はここから





3月19日

社大の卒業生であることを誇りに 学位授与式（卒業式）



同窓会から卒業証書・学位記ホルダーを贈呈しました

ハイブリッド方式（対面とオンライン）で
挙行されました



卒業生の皆様へのメッセージカード

今、皆様は日本社会事業大学で過ごされた4年間の日々をどのように振り返っていらっしゃるでしょうか。

桜が舞い散る春に始まり、四季折々の情景を写し出すこの清瀬という地にある大学で、多くのもの、多くのこと、そして多くの価値観に巡り合ってきたことでしょう。時にはそれらは衝突という形で、先輩方の胸の内に様々な葛藤を生んだことと思います。

先輩方は私たちを入学当初から暖かく迎え入れてくださいました。学生生活で不安なこと、わからないことがあれば教えてくださいました。また、サークル活動や実習、学内外での活動において私たちの一歩先を行く姿に憧れを感じました。その姿から、日本社会事業大学の学生としてどのようにあるべきか学び、この

伝統を受け継いでいくことが大切であると感じました。

先輩方がこれから進まれる社会は大変な状況となっています。この一年以上、日本のみならず世界中が、未曾有の災厄に見舞われ今現在もその影響は続いています。今まで当たり前であった日常が崩れていく中で「人と人とのつながり」「絆の大切さ」をより強く実感いたしました。先輩方と関わる中でつないできた絆は後輩に受け継がれ、そこからさらに後輩へと繋がってきました。私たちはこうした絆を失わないように、伝統を受け継いでいきたいと思います。皆様のご健康とより一層のご活躍をお祈りいたします。

2021年8月15日 在校生代表

森田晃浩（学生自治会）

4月5日

分散会場にLIVE配信 入学式



4月1日

2021サークル説明会

(大学ボランティアセンター・学生自治会)
オリエンテーション終了後に開催しました



6月26・27日

社大福祉フォーラム2021 (第59回社会福祉研究大会／オンライン開催)



華道部 ちるる



コーヒーハウスチロルです。
普段は常連さんが良く訪れる喫茶店です

「華道部ちるる」って??



学外の華展に出演した作品。上野の東京都美術館の華展や他大学との合同華道展などに出演することもありました

華道部ちるるは清瀬駅近くにある「コーヒーハウスチロル」にて活動を行う華道サークルです。流派は池坊です。華道部ちるるは平成12年に設立されました。当初は大学で活動をしていましたが、指導をされる内田阿紀子先生のお店であるチロルで活動するようになりました。学外の華展への出展なども行っています。先生が教えてくださる本格的な華道と活動後のお茶会が楽しい、華道をやったことがない方でも大歓迎のサークルです。

メンバー写真



活動後の様子。皆でお茶をしています（2019年度の写真）

活動写真



お花を生けるときは皆真剣です

ちるる 活動メモ

月2回の活動

- 10月 学祭での作品の展示
- 各華展への出展など



2019年の学園祭です。
夜遅くまでメンバー全員で様々なお花を生けました！

これからの活動について

新型コロナウィルスにより喫茶店チロルでの活動は行えていませんが、ZOOMを活用した活動を行っています。オンラインでできることは限られていますが、実際にお花を生ける際に役立つことを提供できればうれしいです。自粛終了後の対面での活動を楽しみにしています！

（サークル代表 / 立花謙治）

母校の支援と同窓生のネットワークを生かすため、あなたの同窓会への参加をお待ちしています。

同窓会企画 福祉現場で活躍するOB・OGとの交流会 (2021「就活・全国フェアーin社大」)

初のオンライン開催 1~4年生・延べ195人が参加

これまで、大学社会福祉学会との共催によるイベントとして実施していましたが、本年度は「同窓会の独自企画による初のオンライン開催」としました。参加対象は、全学年とし在校生への皆様には「大学のWeb ポータルシステムに掲載」し案内しました。実施日時は、概ね 6 月～ 7 月の間に、参加団体と学生の都合がよい日程とし、当日は参加団体がホスト

になつていただき学生と交流していただきました。

■参加施設 17 法人・延 26 施設(高齢 9 施設、障がい 13 施設、児童 4 施設) ■参加人数 延べ 195 人でした。参加団体の皆様には母校の実習現場の提供や就職支援にも引き続いてのご協力をよろしくお願ひします。

同窓会事務局次長・大学准教授 有村大士 (コーディネート)



先輩から在校生へのメッセージより



日々、直接支援することの楽しさを経験しています。社会変化とともに利用者の背景も変わり、その変化への対応を求められます。しかし結局は自らの生きざまを、自ら問う仕事だと思います。

(白根学園ぶどうの実 多田純夫様: 学部 20 期)



社大での経験、出会った仲間たちとのつながりが、仕事をする中でとても生かされています。目の前の一人ひとりを大切に思いやりのある関係をつくっていくために、その人を知る努力を共にしていきたいですね。

(ル・プリ SELP・杜 榎正晴様: 学部 37 期)



社事大を卒業して 20 数年。OB・OG との再会に「新たな気づき」に出会い、活躍を耳にすると「力」をもらい、得難い仲間の存在にとても感謝しています。皆様も、このような状況の時にこそ在学中にできた人とのつながりを深めつつ前に進んでいってください。

(ル・プリ 目下地域ケアプラザ 古村浩之様: 学部 38 期)



昨今の混乱の中、福祉従事者はエッセンシャルワーカーとして支援が必要な方々へ力を尽くしています。現在、困難な状況にいる学生は将来必ず今の経験を活かせる場があり、福祉従事者として第一線で活躍できるはずです。希望を持ってがんばれ、社大生!

(千葉県支部: オリーブの樹 和田幸成様: 学部 45 期)



2021オンライン 就活・全国フェアーin社大 参加団体

参加団体

社会福祉法人あすはの会

社会福祉法人森森聖心院

社会福祉法人白根学園

社会福祉法人 東京都手をつなぐ育成会

社会福祉法人 龍谷川学園

日本赤十字社総合福祉センター

社会福祉法人 光明会

社会福祉法人 春陽苑

社会福祉法人 ル・プリ

社会福祉法人 白十字会 様因園園老人ホーム 白十字ホーム

社会福祉法人 武藏野

大田幸福会 法人本部

参加支部

北海道支部

はるひの里

社会福祉法人 栄和会

愛誠会

栃木県支部

すがのこ会

千葉県支部

社会福祉法人オリーブの樹



同窓生が書いた本 紹介

『ケアマネジャーはらはら日記』

岸山真理子 (研究科 53 期・1993 年卒)

発行: 三五館シンシャ 四六判 208 ページ

定価 1,300 円+税 2021 年 7 月発行

ベストセラー【日記シリーズ】第 8 弾!!

今回も実話の生き生き ~ 当年 68 歳、介護の困り事、おののきながら駆けつけます~

47 歳から現在までケアマネを続ける著者による奮闘の記録。

・こんなへボマネ、見たことねえぞ!」

・ケースワーカーの生活保護「水際作戦」 etc.



社大卒業生を対象とした本学共同研究の参加のお願い

情報共有ツールを活用し、新型コロナウイルス対応の情報交換と福祉キャリアの支援のネットワーク構築に関する研究 (研究代表: 佐竹要平) を本学社会事業研究所の共同研究として実施します。本研究に参加して貰える卒業生は QR コードか下記アドレスのフォームに必要事項をご入力ください。11 月以降、参加方法を登録したメールにてお知らせします。(本学教員・研 52 期 佐竹要平) <https://qr.paps.jp/QuE6d>



佐賀県同窓会が『高校向けオンライン大学説明講座』を企画

「日本社会事業大学で学べる社会福祉とは?」
全国で初めての高校向けオンライン授業・出前講座です。母校教員がオンラインで高校を訪問し、大学やカリキュラムの概要等について説明します。

第 1 弾は佐賀県立神崎清明高校で計画。講義時間は 1 コマ 40 分程度で「大学入試広報課とのコラボ企画」です。【本講座の開催については、同窓会事務局までお問い合わせください。】



3月26日

第2回法人・同窓会意見交換会(アルカディア市ヶ谷)



6月26日

同窓会幹事会(書面決議・オンライン併用)



母校の支援と同窓生のネットワークを生かすため、あなたの同窓会への参加をお待ちしています。

『がんばれ社大！がんばろう同窓会！』

北海道支部

年4回の支部会報「アガペ」で交流

北海道支部はこれまで、本学同窓会に対し継続発展のため諸提言を必要に応じて行ってきました。また道内の社会福祉系大学卒業生や社会福祉現場で働く人達との連携を強化すべく「ヨコイト」を結成し共同活動を展開してきました。



特に昨年は道内在住の同窓生の把握と「アガペ」を通じ連絡調整と会員間の交流を図りました。

今年もコロナ禍の中、活動が制限されますが、「アガペ」の発行(年4回を想定)を通じ会員間の相互交流と道内の社会福祉現場の力量向上への寄与に努めます(「アガペ」は同窓会HPに掲載中です)。

事務局長 儀藤 敦

茨城県支部

現役学生も参加できる活動目指して

コロナ禍の為、今年度実施を予定していた、支部総会を来年度に延期します。



現役の学生にも参加しやすい会となるよう工夫していきたいと考えています。 支部長 高松 孝幸

栃木県支部

活動は会報「いずみ」の発行メインに

昨年度はコロナの影響により、総会・交流会は開けず、活動は支部会報発行のみとなりました。今年度も同様になるかと思います。



会報は年1回のみの発行となります、全会員から原稿を募集しています。多くの会員から寄稿していただきたいです。 事務局長 菊池 浩史

佐賀県支部

県内高校への訪問活動を継続実施

コロナの関係で支部活動も停滞していましたが、8月下旬に支部会員4名、嬉野高校・神崎清明高校の福祉コース教諭2名、大学在校生1名にて食事会を計画しておりますので、それぞれの立場で自由に話してもらいたいと思っています。



県内高校への大学案内パンフレットの配布については、今年も継続して訪問活動を実施して高校とのコミュニケーションを計っており、佐賀県からの入学者が一人でも多く増えることによって支部活動の光が見えてくれればと願っているものです。
(現在の入試の改善案について)

福祉の仕事に情熱を持ち、やる気のある志願者のために「学校推薦型選抜(福祉系高校推薦)」及び「社会福祉分野推薦選抜」の募集人数を大幅に広げてくださることを、是非ご検討ください。

事務局長 藤崎 信一

岩手県支部

総会は資料送付で

令和2年度はコロナ禍で感染予防を第1に考え、支部活動は書面により総会のみという状況でした。新年度においては、引き続き感染予防と三密を避ける行動を続けることとなります。

遠く離れた親子親戚の交流がしにくいくこと、県外への旅行がしにくいくことなど、人と人との結びつきが離れてしまうのは困りもの。状況を踏まえながら徐々にできることから、活動を進めて行きたいと考えています。

事務局 星 拓史

福島県支部

コロナ禍での可能な活動を探りながら

新型コロナの影響により、例年の同窓会活動(講演会と同窓会総会)が2年連続で困難となり、同窓会消滅の危惧が生じました。そのため、令和2年度は、各会員から総会の書面評決と共に近況報告を頂戴し、それをフィードバックし共有しました。33名からの返信があり、特筆事項は、昭和28年卒業の3名の大先輩の叙勲、遠藤久江先生の著書出版でした。



多くの会員が同窓会に心を寄せて下さっていることは非常に大きな強みです。コロナ禍でも可能な活動を探りながら、社大同窓生として繋がり続ける事ができるようにと考えています。

支部長 菊地恵子

京都府支部

若い世代の参加を視野に

コロナ禍でもあり活動が行えていないのが現状です。ここ京都では社大は全くの無名であり、神奈川出身の私としては大きなショックを受けています。勉強会や親睦会を行っても出席者は学部24期(1980年入学)の私よりも先輩の方が殆どですので、より若い方に参加して頂き、学び、社大の知名度が上がるような何かを模索したいと思います。 支部長 塚本 智

奈良県支部

メール等による情報交換も検討中

例年夏頃に支部会を開催し、会員の近況報告や県内の福祉事情などに関する意見交換を、食事を交えながら行い交流を図ってきたが、新型コロナウイルス感染拡大の状況や、支部長自身の事情等があり、最近は支部会を開催できていない。

今後は支部事務局長とも相談の上、メール等による情報交換や近況報告を行っていきたい。 支部長 渡辺 一城

◆2021年度事業計画

現在もなお、新型コロナウイルス収束の見通しが立たない中、同窓会の会員、そして在学生はじめ教職員、その関係者一人ひとりに「社会の福祉誰が任せ」が問われる時代が再来している。

同窓会は、社会福祉の実践者として「忘我の愛と智の灯」の校歌の下結集し、卒業生同士での活動だけでなく、在校生とも一緒にあって、今後も社大教育と実践をつないでいく。

実習現場の提供や就職支援、そのための卒業生のネットワークづくりをさらに推し進めるため(1)支部活動の活性化(2)在校生との交流・同窓生間の交流の促進(3)大学とのパートナーシップ推進に引き続き取り組んでいくとともに、大学が行うコロナ禍における学生教育支援策についても協力する。

◆同窓会活動強化のためのキーワード▶

同窓会総登録数 17,123人 清瀬年代(入学者) 8,979人	 日本社会事業大学 同窓会	会報送付数 8,300 部 同窓会の取り組みをもっと身近に
就職などの在学生支援 福祉現場で活躍する OB・OGとの交流会 同窓会支部コーナー設置		会費納入者(約1,500人) 同窓会基盤の強化 会費を納入する若い世代や 在学生の参加推進
現場との交流促進 同窓会 × 大学 パートナーシップ推進 コロナ禍における学生支援	修学困難学生に対する支援 五味基金の活用 JCSWネットワーク 職場体験等応援制度の活用	大学入試広報との連携 同窓会セミナー(地方大会)の活性化 大学講座への参加、協力

◆母校・在校生への支援

(1)コロナ禍における学生教育支援 国の給付金制度により生活困窮という視点での支援は、ある程度行き届いているが、学習環境の整備はまだ課題がある。同窓会予算にコロナ学生支援費を計上し、大学の学生支援策を支援する。

(2)福祉現場で活躍するOB・OGとの交流会 ZOOMによるオンライン開催。「就活フェアin社大」を同時開催

2020年度 日本社会事業大学同窓会収支計算書

2021年度 日本社会事業大学同窓会予算

(単位:円)		
科 目	2020年度決算額	2021年度予算額
会費収入	5,327,455	5,000,000
入会金収入	2,848	30,000
雑収入	214,827	50,000
前年度繰越金	2,497,949	4,137,621
合 計	8,043,079	9,217,621

【収支差引額】

$$8,043,079 - 3,905,458 = 4,137,621$$

(収入決算額) (支出決算額) (翌年度繰越額)

- ◆ 2020年度 一般運営基金現在高 19,973,084
- ◆ 2020年度 五味基金現在高 15,353,951

支出の部

科 目	2020年度決算額	2021年度予算額
会議費	87,426	200,000
委員会活動費	15,272	50,000
人件費	377,550	600,000
支部強化費	263,000	600,000
機関誌等発行費	2,505,615	2,600,000
支部出張費	0	250,000
通信運搬費	87,112	150,000
学内学会助成費	0	100,000
ホームページZOOM関係諸費	178,496	200,000
慶弔費	22,000	50,000
国際交流推進費	0	50,000
卒業記念品費	232,920	300,000
コロナ学生支援費	0	2,000,000
事務局活動費	136,067	200,000
予備費	0	1,867,621
合 計	3,905,458	9,217,621

(3)JCSWネットワーク職場体験応援制度 在校生の就職活動や支部セミナーへの交通費等経費の助成(上限額1万円)

(4)同窓会「五味基金」による修学困難学生に対する奨学金支給

最新CDプレゼント

抽選で5名様に。//

山本智さんのCD(2021年2月22日発売)をプレゼントします。



☆山本さとし35周年記念CD☆
『君のそばで～山本さとしアンソロジー～』 シンガーソングライター山本さとしさんの初期アルバム3作品(LPとテープ)からのセレクト17曲リマスター版・限定版

昨年来のコロナ禍で音楽活動は曲作りとCD制作。初期アルバムからのギターアンサンブルとバンド演奏をセレクトしてリマスター
『福島県喜多方市出身。学部25期。日本社会事業大学附属子ども学園長・同窓会監事※ホームページ <http://www.satoshi-y.net/>』

住所・氏名を次のあて先までご連絡ください。
 〈郵便の方〉 〒204-8555 清瀬市竹丘3-1-30
 日本社会事業大学同窓会
 〈FAXの方〉 042-496-3051
 〈E-mailの方〉 kouyu@jcsw.ac.jp

同窓会費納入にご協力を

新型コロナウイルス感染症の長期化は、在校生の学生生活にも多大な影響を及ぼしています。大学では昨年の後期授業から分散通学とオンラインによる授業が行われておりますが、サークル活動は休止となっています。そのため、同窓会では母校からの要請を受けてコロナ学生教育支援に協力します。皆様には会報に同封されている「同窓会年会費」納入用紙をお使いいただき、何卒ご支援、ご協力をお願い申し上げます。

同窓会会長 岩崎俊雄

(終身会員制度について)

2011年度から「終身会員」(5万円)が設けられ、納入時満年齢60歳以上の方は、「年会費」と選択ができます。「終身会員」として納入される方は、郵便局・ゆうちょ銀行の払取扱票と払込書兼受領証の金額3000を2本線で抹消し上段に50000と訂正し、“認印”を押して下さい。コンビニエンスストアではお取り扱いできません。

子どもにとつて良い環境は そこに住む大人にとつても良い環境となる

長年にわたり子ども達の養護や
自立支援に関わっていますが

社会福祉法人青葉学園は、福島市
にある児童養護施設です。1946
年、国語学者であり、ローマ字教育研
究者である三尾砂(みおいさご)が戦
災孤児の養育と教育のため創設。三
尾砂夫妻の家族に数名の児童を迎
え、家庭的な養育を基盤として出発
しました。1948年5月に児童福
祉施設として認可、1953年4月
から社会福祉法人に組織変更され
ています。

私は、埼玉大学経済学部に入學
後社会的問題に対して教育的側面
から関心を持つようになり、卒業後
に高等学校の教員の道を選びまし
た。その間、現場の仲間たちと「教育
を考える会」を開催し今日まで継続
してきました。その中で、敗戦後の日
本の子どもの新たな教育をめざした
設置者三尾砂夫妻との出会いが私の
会いが私の原点となりました。

青葉学園の存在を知り、訪問す
る機会がありましたが、青葉学園の
児童養護施設実践の原点となりま
した。

創設者の説明もあり、教員を辞め
て1979年4月から青葉学園に児
童指導員として勤務しましたが、前
園長の勧めで1980年に日本社会
事業学校研究科(*)に進学し児童
福祉を学びました。(※日本社会事
業学校研究科//1946年・昭和21
年創設。2004年・平成16年3月
研究科の廃止により日本社会事業學
校も廃止。同校の58年にわたる福祉
従事者養成の歴史の幕を閉じた)

1995年には東北地方では当時
数少ない福島市ショートステイ事業
を開始。2004年にはグループホ
ームを開設しケア体制の小規模化を
図り家庭的養護を推進してきました。
創立以来の卒園生は800人を
超えより家庭的な援助を行うため
に5グループホームを設置。子育て
支援短期利用事業(ショートステイ)
や箱庭療法等心理的支援にも力をを
入れてきましたが、子どもが自立で
きる環境の充実に取組んできしたこと
が、青葉学園の特色でもあると自負
しています。

神戸さんは、福島県同窓会の活動

その一つが、原発事故から子ども達
の健康を守る活動です。2011年
3月の東日本大震災とその後に起きた
た東京電力福島第一原子力発電所の
事故による放射線被ばくという未曾
有の災害は、福島の子どもだけではなく
く我が国の子ども全体に大きな影響
を及ぼしました。

放射汚染問題の解決に先が見えな
い中、2012年4月から学園内に
食品放射能測定器を独自に設置し、
毎日3食の検査を行う一方地域への
健康管理に努めました。放射能の健康
被害から子どもをいかに守るか、そ
の問題意識から、その後の「原子力発
電所事故への対応マニュアル」の作
成(2012年2月・福島県社会福
祉協議会児童福祉施設部会)や全国
初となる県内8か所児童養護施設に
結(2021年5月)にも繋がりました。

今後の活動と抱負などについて

現在青葉学園が特に力を入れてい
るのが福島市小規模法人ネットワー
ク協働推進事業「福島地域福祉ネ
ットワーク会議」です。この会議はN
PO法人・社会福祉法人町内会等
の11の小規模団体で構成された「地
域共生社会」の実現を目指している

今般の新型コロナウイルス感染症
の長期化により学生生活が大きく制
限される状況が続いています。そのよ
うな時にこそ母校で培った社会福祉
の価値観や皆さんの一人一人の個性
をもつて、高い壁に挑んでほしいと切
に願っています。

在校生の皆さんへのメッセージ

第一線からは少しずつ遠ざかっていき
ますが、これからも創設者の想いを
紡いでいきたいと考えています。
児童養護の現場で40年が経過し、
他の支部同窓会活動にも拝がってい
くことで、母校社大の発展に大きく
繋がっていくことを強く期待してい
るのですが、昨年来のコロナ禍の状
況下ではしばらくは活動が難しいと
しようか。

また、この9月からは福島県の補
助事業として県北初の「児童家庭支
援センター」が立ち上がりります。
これまで開催してきた支部研修会を社
大・同窓会主催の「日社大市民公開
セミナー」に位置付け実施しました。
2013年12月には「東日本大震災
の復興・再生」をテーマに全国10都県
から80人の参加者がありました。今
後このような草の根的な取り組みが
他の支部同窓会活動にも拝がってい
くことでの発展に大きく貢献するこ
とができます。

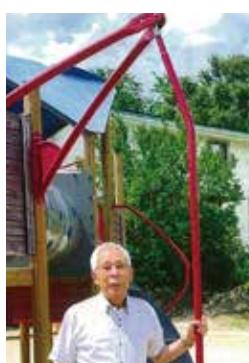


2009年9月の同窓会セミナー（会津大学で）

しています。

ネットワーク会議には、子ども・障
がい者・高齢者のための活動を、各団
体の地域貢献で推進する他、多様で
複雑化している地域課題の解決に向
けて連携協働を行っています。定期
的に各連携組織から中堅実務者等
が参加し、情報交換会の実施により、地域
行事や連携団体のイベントに互いが
参加し、協力することで、行事の盛り
上がりや運営の人出不足の解消、孤
立しがちな子どもや老人、障がいを
持つ方が、移動支援、農福連携等の支
援によって社会的活動が広がるなど
の効果も出てきています。

**神戸 信行
研究科35期
(1981年卒)**



プロフィール

神戸 信行
(こうべ のぶゆき)

1948年7月26日埼玉県川口市生まれ。埼玉大学経済学部卒業、1981年日本社会事業学校研究科卒業。教職生活を経て、1979年に社会福祉法人青葉学園へ奉職。以来40年にわたり子ども達の養護や自立支援にあたり、現在は常務理事・9月より児童家庭支援センター所長に就任。福島市要保護児童対策地域協議会長、福島市社会福祉審議会(児童福祉部会)委員他。2020年度社会福祉学会(木田)賞受賞